

先進事例を見る

全国中央会では、中小企業・小規模事業者や組合等連携組織が、新たな事業活動への挑戦や組織体制の見直し等を行う際の参考となるよう、知識や経験、ノウハウの移転・活用につなげることを目的に掲げ、都道府県中央会と連携し、課題解決等に先進的に取り組む組合活動事例について調査・分析、収集・普及を行っており、収集した事例を全国中央会のホームページ（組合事例検索システム）で公開しています。

今回は、平成30年度に行った調査のうち、「青年部による活性化」についての組合事例をご紹介します。

徳島県鉄骨構造協同組合

— 若手後継者の創意工夫と活力で組合を活性化! —

住 所	(〒770-8006) 徳島県徳島市新浜町1丁目1番7号 (徳島県職業能力開発協会内)		
電 話 番 号	088-663-2551	U R L	http://tokushima-tekkotsu.com/
設 立	昭和49年4月	出 資 金	10,500千円
主 な 業 種	鉄骨構造物工事業	組 合 員 数	26人

■背景・目的

生産年齢人口減少のなか、特に鉄骨工事業界の人手不足は深刻である。近年は品質や安全性が重視され、短い工期での施工や複雑な建築物が増えることで、高い技術も求められており、中小企業は多能工の従業員を育成していく必要に迫られている。

そこで、青年部が中心となり、生産性の向上を目指して、省力化工法を取り入れ、従業員のスキルアップと多能工化と業界の活性化を図っていく。

■取組みの手法と内容

徳島県の青年部会では年6回連絡会議を開催しており、さらに県内のみならず四国青年部連絡協議会を組織し、青年経営者・後継者のための経営研修会、工場見学等を毎年実施している。

若手経営者にとって他組合員・県外同業者との情報交換は貴重なものであるが、頻繁に情報交換を行うための時間と費用をどのように確保するかが課題となる。それを解決するために、四国四県青年部が必要な機材を購入し、ネット会議を実施している。それによりタイムリーに情報交換を行う仕組みが構築され、年約7回ものネット会議の実施を実現している。

近年の業界全体の傾向として、入職率や定着率が低く人材不足が深刻な課題である。課題解決のために、青年部では、若い世代へ仕事内容を広く周知する活動にも力をいれている。たとえば、平成25年から4年間、徳島県立中央テクノスクールの校内渡り廊下を青年部が専門家として学生を指導し、建設した。組合員企業の中でまだ現場を経験したことがない若手社員にも参加を募り、学生らとともに建設に携わった。このような活動を通じて若手の人材育成も行っている。また、県内で業務の効率化を図っている組合員の工場へ視察研修を行うなど、同じ業界の中で現場を公開し、お互いに情報交換し、勉強し合うというような取組みも実施している。

このように、青年部員が一丸となりスキルアップを目指す姿勢が、モチベーションを高め、人材の育成・定着、青年部会の活性化ひいては組合全体の活性化につながっている。

■成果とその要因

青年部会が結成された平成3年5月から既に27年の月日が経ち、結成当時青年部員であった者が、現在では理事長、役員となっている。これまで長きに亘り築いてきた良い協力関係が現在の徳島県だけではなく四国四県での活動に、大きく良い影響を与えている。



▲全国鐵構工業協会四国青年部連絡協議会の様子



▲建築用の鉄骨製造にMRデバイスを活用するソリューション研修の様子



▲徳島県立中央テクノスクールで指導を実施



事業・活動 実現のキーファクター

「組合のメリットは何か」と言う前に、自ら情報交換の場に積極的に参加する自発的な姿勢が組合のメリットを生み出す。